

海自「無操縦者航空機の試験的運用」における 鹿屋航空基地の活用について

令和6年2月

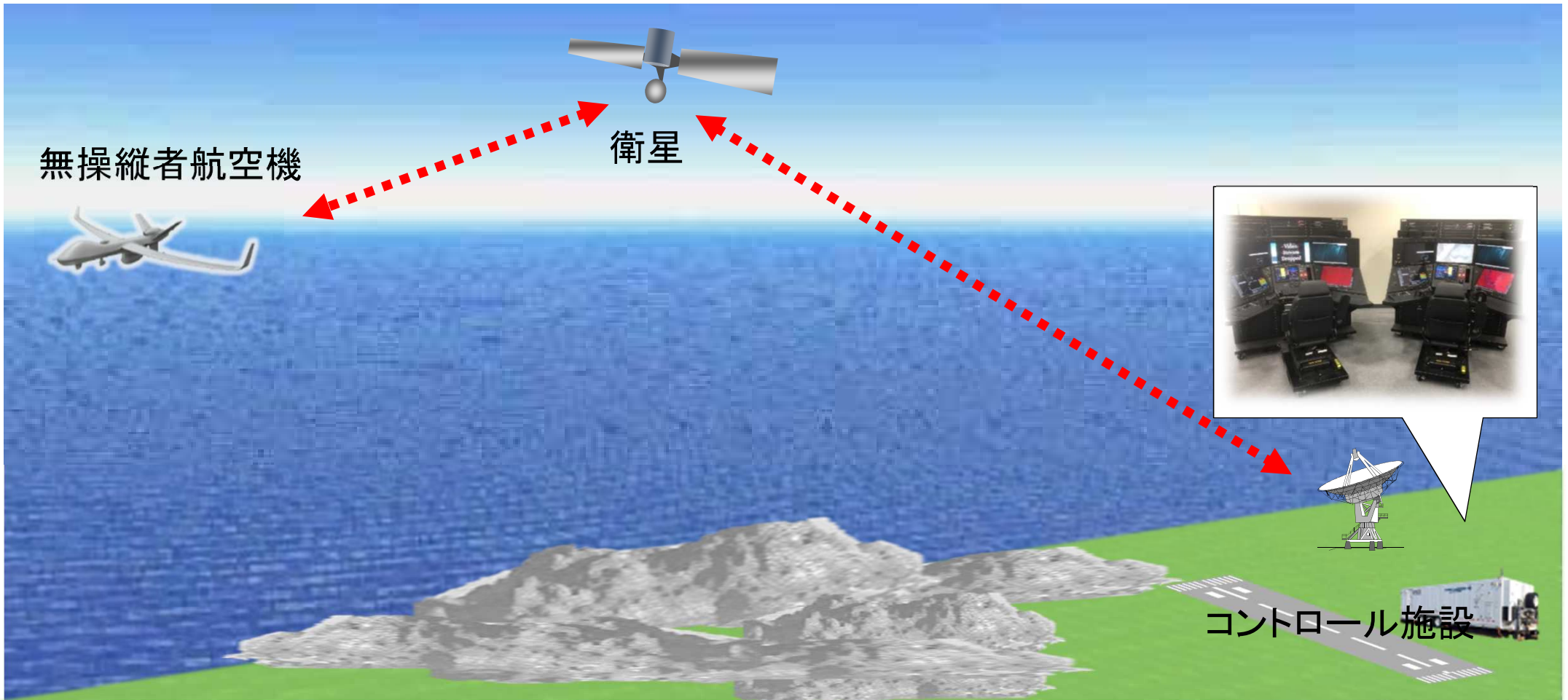
防 衛 省

背景・経緯

- 周辺国の活動の拡大・活発化など、一層厳しさを増す我が国の安全保障環境の下、自衛隊の対応が求められる事態が増加しており、かつ、そのような事態における対応も長期化しつつあります。
- このため、広域において常時継続的な警戒監視・情報収集を行い、各種兆候を早期に察知する態勢を強化する必要があります。
- 令和2年度の海上保安庁による無操縦者航空機の飛行実証結果により、無操縦者航空機は長時間航続性能、P-1と同等以上の目標検出能力等を有し、海上自衛隊の警戒監視・情報収集等の任務の一部に活用できる可能性を確認しました。
- 無操縦者航空機が海上自衛隊の任務に適合し、態勢強化に資することを確認するため、海上自衛隊は、無操縦者航空機の試験的運用を令和5年度に開始しました。

無操縦者航空機の概要

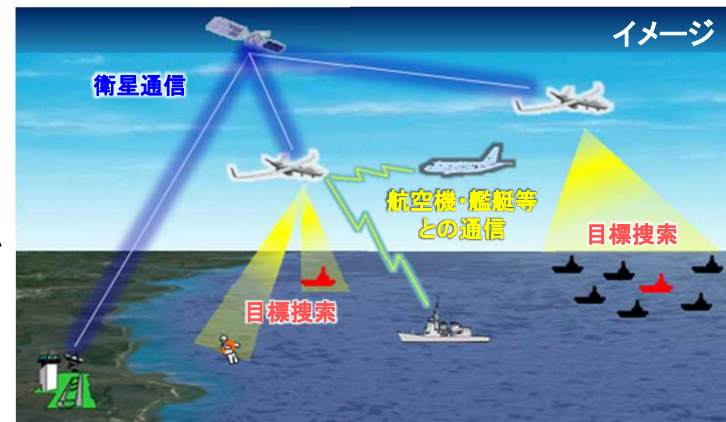
- 無操縦者航空機とは、操縦者が乗り込まないで飛行することができる装置を有する航空機のことを言います（航空法より）。
- 海上自衛隊で今般運用している無操縦者航空機は、地上のコントロール施設から、衛星を介した無線等により、人を搭乗させずに、遠隔で操縦しています。
- コントロール施設には、通常の有人航空機のcockpitと同様に操縦桿があり、カメラによる外部監視、無線を使用した管制通信等を行っています。



(参考)無人航空機とは、航空の用に供することができるものであって、構造上人が乗ることができないもののうち、遠隔操作又は自動操縦により飛行させることができるもの(100g以上)を言います(航空法より)。

試験的運用概要

- 【期 間】 令和5年5月9日～令和6年9月頃
- 【拠 点】 海上自衛隊八戸航空基地
- 【機 体】 シーガーディアン(ジェネラル・アトムクス社製)
- 【内 容】 我が国周辺海域の警戒監視等各種任務への適合性確認
- 【その他】 安全対策・騒音対策を徹底
機体や設備はリース
運用指揮者、操縦員、整備員はアウトソーシング



試験的運用実績

【実 績】 約740時間(70回の飛行)(令和6年1月末時点)

時期	実施項目
令和5年4月～6月	基本飛行性能の確認
	センサ性能の確認
令和5年7月～9月	緊急対処要領の確認
	情報収集飛行要領の検証
令和5年10月～12月	警戒監視(模擬)による運用体制等の検証

今後の計画

- 令和6年度は、八戸航空基地を拠点とした運用を継続しつつ、鹿屋航空基地を活用した東シナ海での警戒監視(模擬)による運用の検証を計画したいと考えています。
- この取組は、無操縦者航空機を活用した警戒監視体制の整備に資するものです。
- 将来の本格運用については、機種を選定も含め、開始時期・配備時期等を検討しているところです。

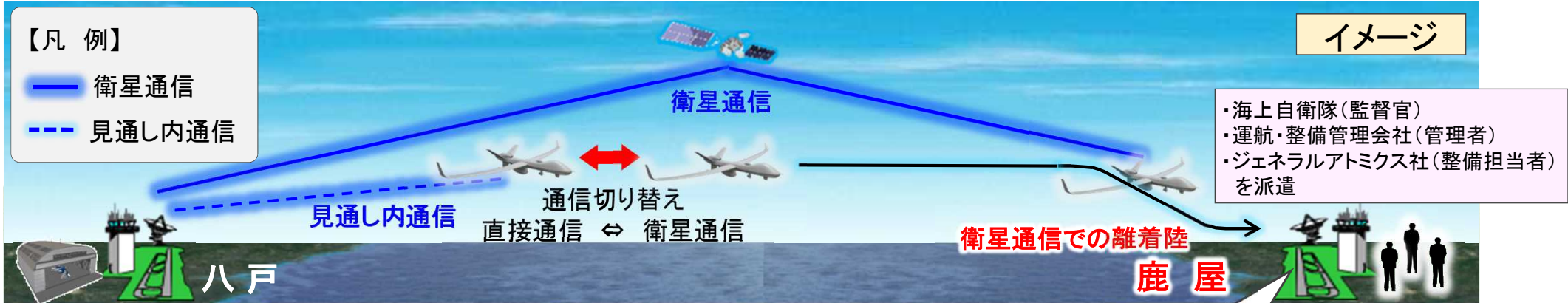
【鹿屋航空基地への飛行】

機数：シーガーディアン1機

要員：10~15名程度

(海上自衛隊(監督官)、運航・整備管理会社(管理者)、ジェネラルアトムクス社(整備担当者))

施設：鹿屋航空基地への離着陸は、衛星通信を用いて行うため、コントロール施設の設置は無し



①八戸航空基地から鹿屋航空基地への離着陸の検証

時期	行動概要
令和6年 4月～6月	八戸離陸～鹿屋着陸(午前)～鹿屋離陸(午後) ～八戸着陸

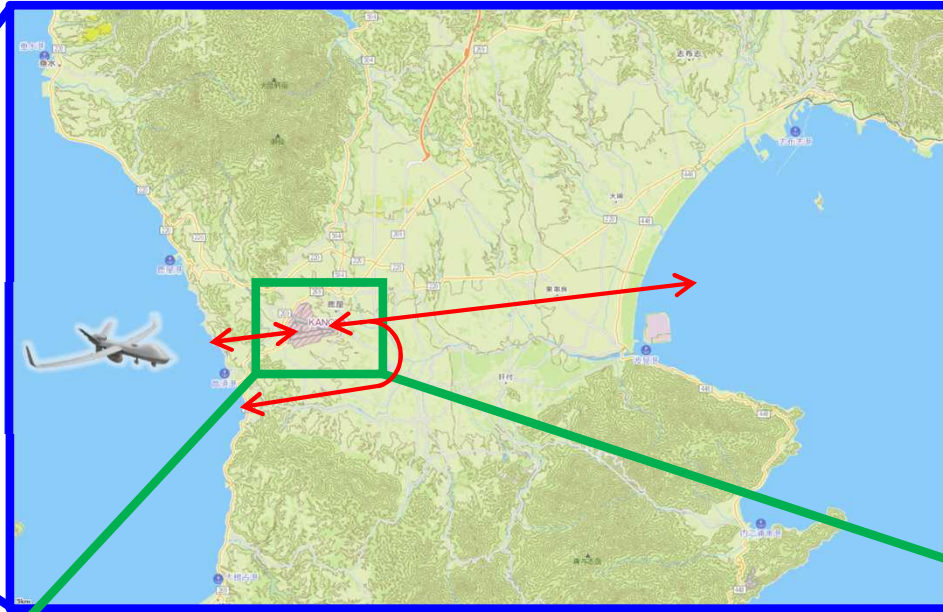
②東シナ海での警戒監視(模擬)による運用の検証

時期	行動概要
令和6年 7月～9月	(1日目)八戸離陸～鹿屋着陸(午後)
	(2日目)鹿屋離陸(午前)～東シナ海～八戸着陸

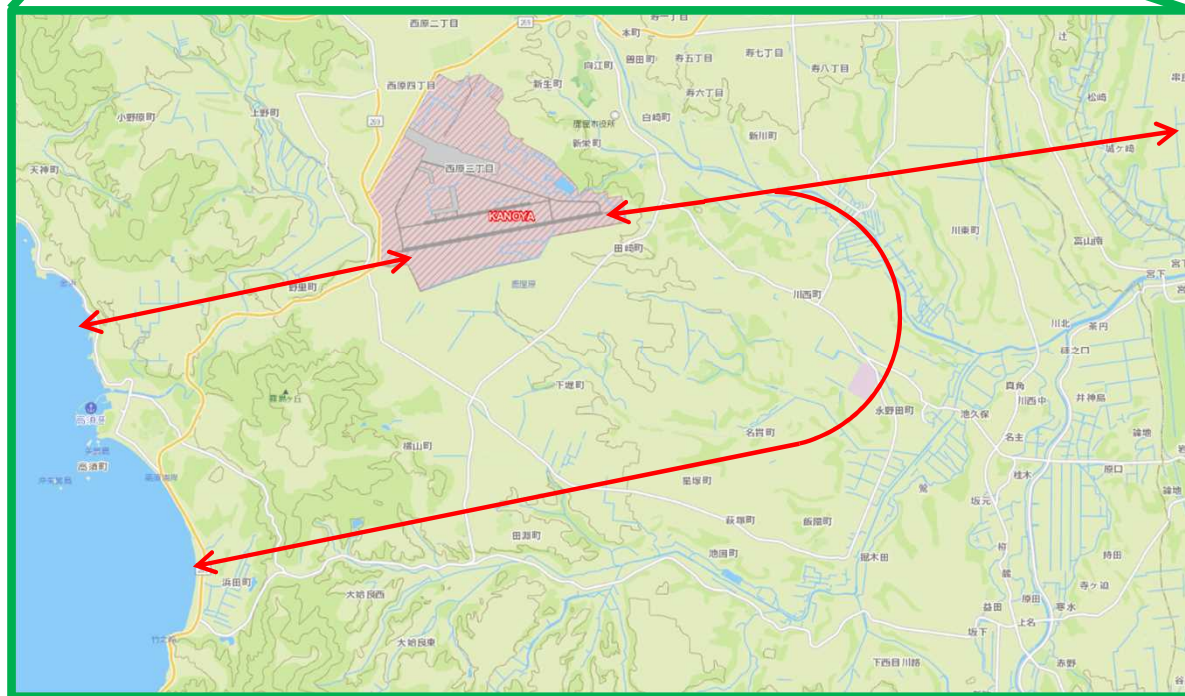
※上記期間内でそれぞれ3回程度(合計6回程度)を計画する予定です。



本試験的運用における 鹿屋飛行場の進入及び出発飛行経路



【凡例】
飛行ルート: ————



【安全対策】

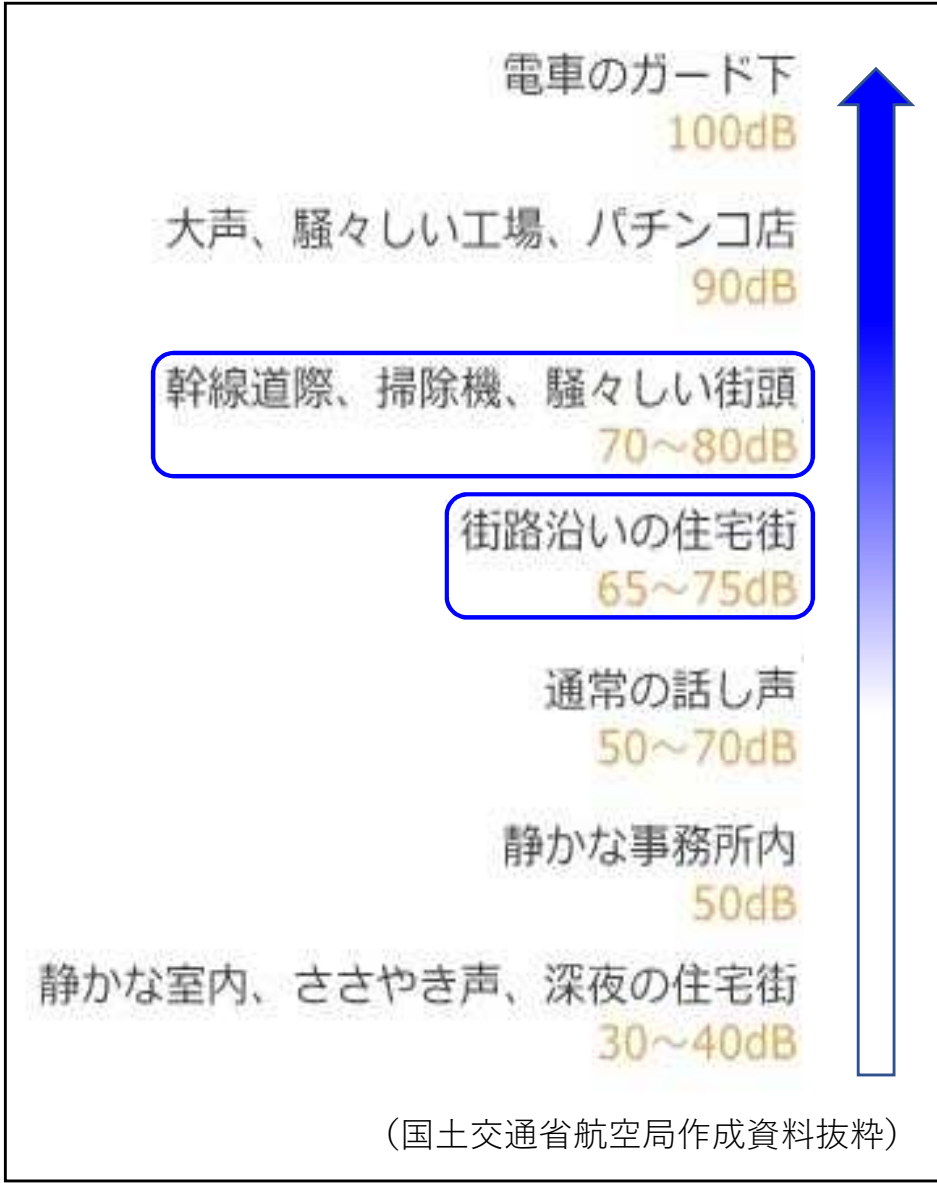
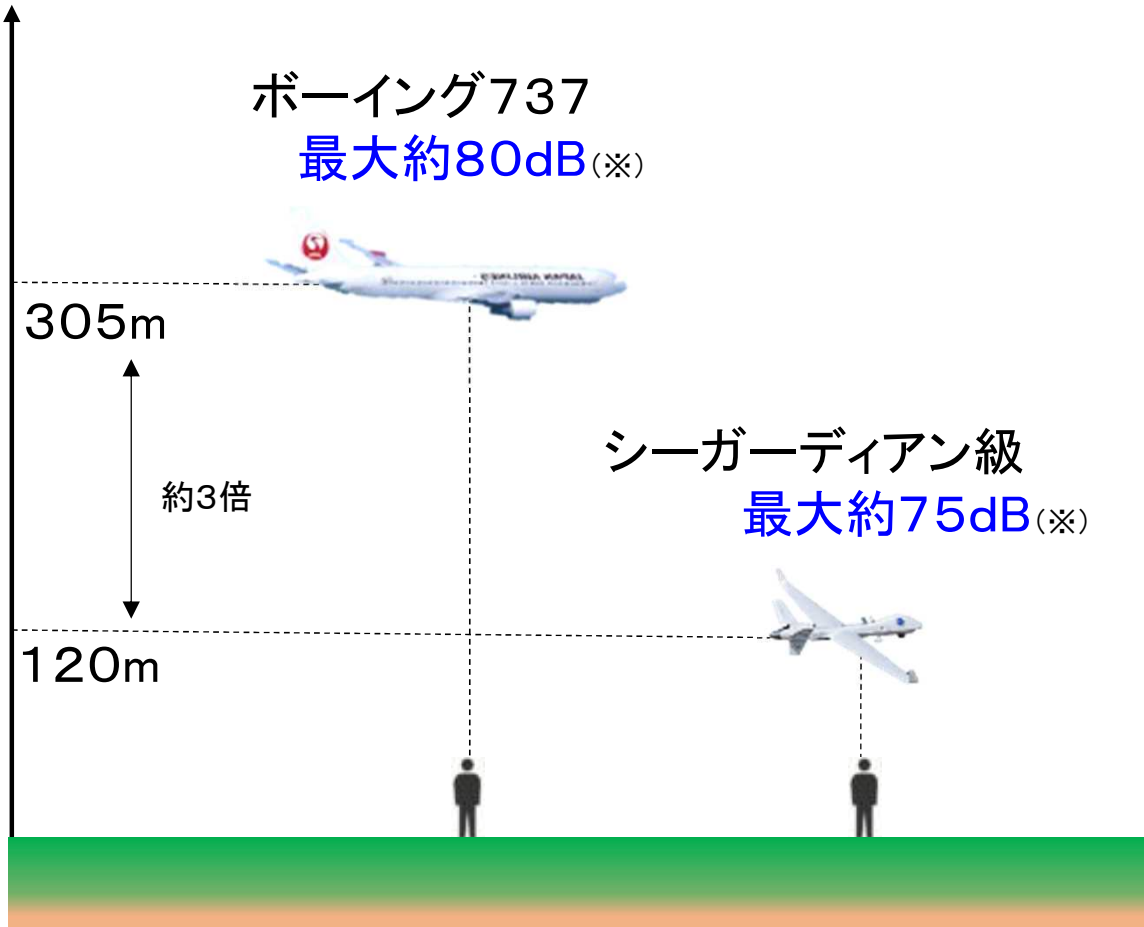
- 安全性を有する機体を選定しております。
(製造国(米国)による安全性の承認・自動衝突防止装置・機体コントロールのバックアップシステム 等)
- 飛行中は、常時 海上自衛官 により監督します。
- 定められた整備作業や飛行前点検を厳格に行います。
- 気象の状況等による各種飛行制限を厳守します。
- 武器や弾薬は搭載しません。
- 緊急事態発生時には地方公共団体等へ速やかに連絡するとともに、海上自衛隊から公表し説明責任を果たします。

【騒音対策】

- 離着陸以外では陸上を飛行しません。
- 離着陸時に陸上を飛行する際は、可能な限り住宅地の直上を避ける等、騒音に配慮した飛行ルートを選定します。
- 離着陸以外では、陸上における低空飛行は実施しません。

【騒音】

- 一般的に有人航空機より騒音は小さいです。
- 米空軍MQ-9と同様のレベルになります。



※ dB(デシベル)とは、音の強さを示す単位

RQ-4B (グローバルホーク)



MQ-9



MQ-9B



機種名	RQ-4B (グローバルホーク)	MQ-9	MQ-9B
全幅	39.90m	20.12m	24.10m
全長	14.50m	10.97m	11.40m
全高	4.70m	3.81m	3.70m
備考	資料源 : Jane's Unmanned Aerial Vehicles and Targets Issue37 米空軍FACTSHEET、General Atomics Aeronautical System社パンフレット、 Northrop Grumman社パンフレット 等		資料源 : ジェネラル・アトミクス社